

## 【 投薬 】

### 109 過活動膀胱治療剤（抗コリン薬2種類並びに抗コリン薬及び $\beta_3$ 受容体作動薬）の併用について

《令和6年4月30日》

#### ○ 取扱い

- ① 過活動膀胱治療剤について、抗コリン薬2種類の併用は、原則として認められない。
- ② 過活動膀胱治療剤について、抗コリン薬と $\beta_3$ 受容体作動薬の併用は、原則として認められる。

#### ○ 取扱いを作成した根拠等

過活動膀胱治療剤の抗コリン薬については、コハク酸ソリフェナシン錠（ベシケア錠）の作用機序に、「膀胱平滑筋において、ムスカリン $M_3$ 受容体拮抗作用を示すことにより、膀胱の過緊張状態を抑制し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する。」と示されている。

しかしながら、併用注意として、抗コリン作用を有する薬剤（抗コリン剤、三環系抗うつ剤、フェノチアジン系薬剤、モノアミン酸化酵素阻害剤）を併用した場合、抗コリン作用が増強されて、口内乾燥、便秘、排尿困難等が現れるおそれがあることが示されている。

このため、抗コリン薬2種類の併用は、原則として認められないと判断した。

また、 $\beta_3$ 受容体作動薬については、ミラベグロン錠（ベタニス錠）の作用機序に、「膀胱平滑筋の $\beta_3$ アドレナリン受容体を刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する。」と示されており、抗コリン作用を有する薬剤とは作用機序が異なることから、併用投与については、原則として認められる。

このため、抗コリン薬と $\beta_3$ 受容体作動薬の併用は、原則として認められると判断した。